

## 前年度の改善方策についての結果

令和4年度の改善方策を受けて、令和5年度の改善事項

- ① 「授業が分かる・楽しい」という児童の育成
- ② 「小学校・幼稚園・中学校を通して探求的活動ができる」児童の育成
- ③ 「多様な人格を尊重できる」児童の育成
- ④

### 具体的な方策

- ① ICT（一人一台の端末）を有効的に活用することで、教師の授業構想力の向上、児童の人間的基礎的の育成を図る。
- ② 世田谷区マネジメントに基づき、世田谷11+キャリア・未来デザイン教育の取組において、烏山学舎の小・中学校・幼稚園との連携を図り、児童の学習面・生活面等の指導上の課題を明らかにするとともに、11年間の系統性をもたせた指導を推進する。
- ③ 全ての児童が、多様な個性を認め尊重していく教育の推進を図る。

### 改善の結果と課題

- ① 全ての教育活動を通して、言語環境の整備やことばの力を高める言語活動への取組を計画的に進める事ができた。  
課題としては、更に、児童の言語に対する関心を高め、思考力・表現力を育成することが必要である。
- ② 幼稚園との交流は、校内の研究授業を通して連携を深めていった。（給田幼稚園）  
キャリアパスポートの積極的な活用が必要である。  
児童が、これからの激しい変化の社会に生き抜くための「せたがや探求的な学び」を実現していくことが必要である。
- ③ いじめの未然防止を周知するために、小さな現象面からきづき、早期発見に努めることで、大きないじめにつながらなかった。  
いじめ発生時には、迅速に校内委員会を開催し、瞬時に解決の方向へ図っていく。  
道徳授業地区公開講座の講演会で、性的マイノリティーの内容で保護者向けに実施した。多くの保護者が参加した。